



人と化学の未来をめざして
マナック株式会社

CSR報告書2026

MANAC Incorporated CSR Report 2026

地球環境・人間社会に対して 信頼と安全・安心・感動を 発信する会社へ。

“生命の源”と言われる海水資源から生まれたマナックにとって、地球環境を守ることは使命のひとつです。法令順守や利益貢献といった最低限の責任を果たすだけではなく、適切な企業統治と情報開示、地球環境・地域社会への配慮など、より高次の企業活動を通して、お取引先様や地域社会の人々をはじめとするステークホルダーの皆様に信頼される企業を目指し、責任ある企業活動を行っています。

本報告書では、持続可能な社会の実現に貢献するため、当社が2025年度に行った様々な取り組みをご報告いたします。

今後とも、CSR活動に取り組むとともに、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図り、よりわかりやすい編集を目指していきます。

■報告対象期間
2025年4月～2026年3月

■報告対象組織
マナック株式会社を対象としています。
※事業セグメントの売上高割合はグループ連結の数値です。

■参考としたガイドライン
環境省「環境報告ガイドライン」、
GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン」

目次

編集方針	1
ごあいさつ	2
会社概要	3
グループ内の組織体制	
拠点	
事業セグメント	
企業理念	
経営理念	
企業行動憲章	
ガバナンス	5
コーポレート・ガバナンス	
リスクマネジメント	
コンプライアンス	
環境への取り組み	7
環境マネジメントシステム	
マテリアルフロー	
大気への排出抑制	
廃棄物の削減	
省エネルギー	
二酸化炭素排出抑制	
環境教育の実施	
環境目標活動	
安全衛生への取り組み	11
安全衛生管理体制の確立	
健康の保持増進	
心の健康づくり	
保安・防災	
化学物質安全・物流安全	
社会との関わり	14
購買基本方針	
地域活動	
人的資本	16
働き方改革	
健康経営の取り組み	
持続可能な社会に向けた取り組み	18
ウッドプラスチック材料の研究開発	

お問い合わせ先

マナック株式会社
環境品質保証部

TEL : (084) 954-3330
FAX : (084) 953-6148
E-mail : info@manac-inc.co.jp

スペシャリティーケミカルので、 持続可能な社会の実現に貢献します。

代表取締役 社長執行役員

山下 美保



平素より、マナック株式会社の事業活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、「スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する」という企業理念のもと、独自の化学技術を活かし、お客様や社会の課題解決に取り組んでまいりました。ファインケミカル、難燃剤、ヘルスサポートの各事業を通じて新たな価値を創出し、社会の持続的な発展に貢献することが私たちの使命です。

近年、気候変動への対応や資源循環の推進に加え、原材料価格やエネルギー価格の変動、地政学リスクの高まりなど、企業を取り巻く環境は大きく変化しています。このような不確実性の高い時代において重要なことは、変化を受け身で受け止めるのではなく、変化に対応しながら社会から必要とされる製品とサービスを提供し、持続的に利益を創出できる企業であり続けることだと考えています。

その実現に向けて当社は、高付加価値製品の開発と拡販、生産性向上への取り組み、生産供給体制の強化を進めています。また、変化を成長の機会として捉え、一人ひとりが主体的に挑戦できる企業文化の醸成にも力を入れています。経営環境が大きく変化する中であっても、社会やお客様から信頼され、安定的に価値を創出できる企業体質の構築を目指しています。

一方で、化学メーカーである当社にとって、安全・環境・品質は企業活動の根幹であり、成長の前提条件です。化学物質の適正管理、労働安全衛生の向上、環境負荷の低減、品質保証体制の強化に継続して取り組み、社会から信頼される企業であり続けることを目指しています。特に2025年度からは「リスクを察知する力と克服する力を育む」を安全衛生方針として掲げ、安全文化のさらなる定着に取り組んでいます。

また、企業の持続的な成長を支える最大の力は人材です。当社は進化する技術、そして進化する人間をめざして、人材育成や健康経営、DX推進に取り組み、一人ひとりが能力を発揮し、成長を実感できる組織づくりを進めています。さらに、環境配慮型製品の研究開発や資源循環への取り組みを通じて、持続可能な社会の実現にも貢献してまいります。

これからもコンプライアンスを経営の基盤とし、「信頼と安全・安心・感動を発信する会社」の実現に向けて挑戦を続けてまいります。ステークホルダーの皆様との対話を大切にしながら、持続可能な社会の実現と企業価値の向上の両立を目指し、取り組みを進めてまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

会社概要

概要 2026年3月31日時点

■商号	マナック株式会社
■設立	1948年5月
■従業員数	194名
■資本金	3億円

拠点

■事業拠点

本社

東京都中央区日本橋3丁目8番4号

大阪営業所

大阪府大阪市西区京町堀1丁目6番2号

福山工場

広島県福山市箕沖町92番地

郷分事業所

広島県福山市郷分町950番地の1

■研究拠点

技術開発センター・技術部

広島県福山市箕沖町92番地

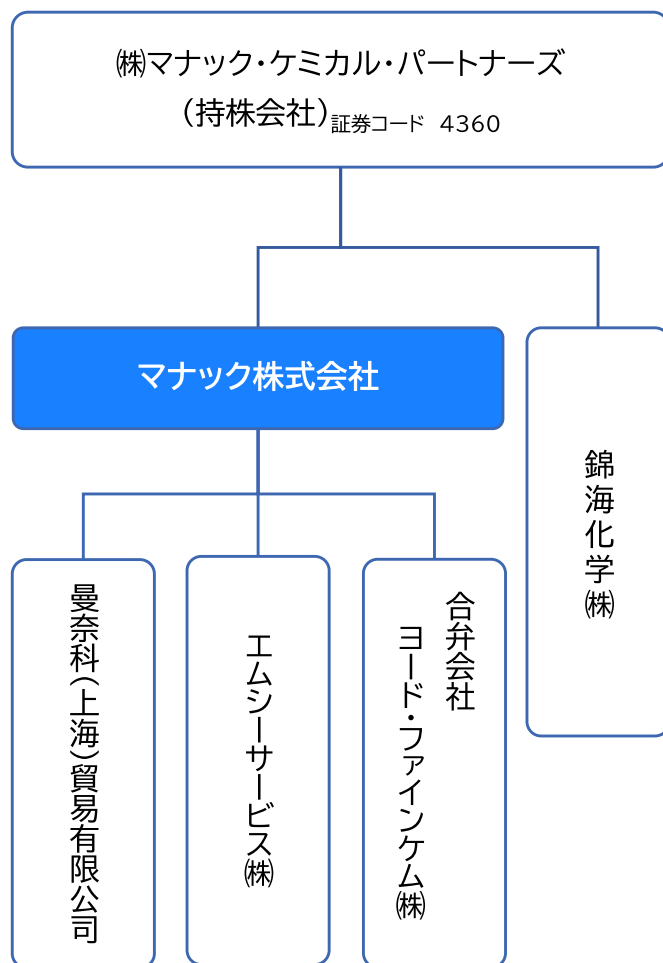
郷分事業所・福山ラボ

広島県福山市郷分町950番地の1

浜松ラボ

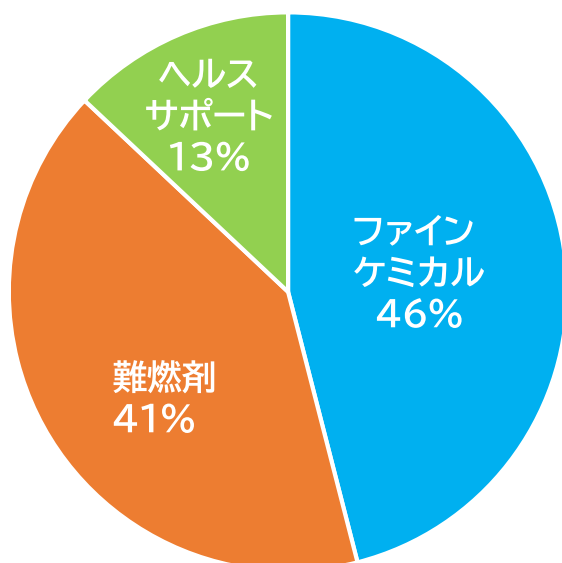
静岡県浜松市中央区西山町1370番地

グループ内の組織体制



事業セグメント

■2025年度 連結売上高ベース



■ファインケミカル事業

難度の高い臭素化・ヨウ素化技術に取り組み、機能材料・電子材料・医薬品・治験薬等の分野に中間体を供給しています。多様な用途に対応した付加価値の高い製品を提供しています。

■難燃剤事業

モノを燃えにくくする特性のある難燃剤の生産・開発を行っています。家電製品、OA機器、IT関連機器、自動車などに使われています。

■ヘルスサポート事業

創業時より医薬・食品等の分野に安定して貢献し、人工透析剤及び輸液等の原料や抗菌剤原料などを取り扱っています。

会社概要

企業理念

『スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する』
～進化する技術、そして進化する人間をめざして

経営理念

- 1 「地球環境・人間社会に信頼と安全・安心・感動を発信する会社」をめざす
- 2 英知と勇気をもって能力を最高に発揮し、企業価値の最大化をめざす
- 3 明日の未来社会からも注目される会社をめざし、常に『革新』

企業行動憲章

公正で透明性のある企業を目指し、「企業行動憲章」を定めています。ステークホルダーの皆様からの確固たる信頼を確保し、企業の社会的責任を果たしていきたいと考えています。

企業行動憲章

私たちは、スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献するためにこの企業行動憲章を定めます。私たちは、あらゆるステークホルダーとコミュニケーションを図り、持続可能な社会の実現に向けた社会的存在価値のある製品を提供し続けたいと考えています。

（法令遵守）

私たちは、各国・地域の法令を遵守するとともに、高い倫理観をもってグローバルな事業活動を展開します。

（持続可能な経済成長と社会的課題の解決）

私たちは、持続可能な社会の実現に貢献するため、化学技術を用いたイノベーションを通じて社会に価値を提供します。

（公正な事業慣行）

私たちは、各国・地域の法令を遵守するとともに、公正かつ自由な競争ならびに適正な取引、責任ある調達を行います。

（公正な情報開示、ステークホルダーとの建設的対話）

私たちは、会社情報を適正に管理し、適時、適切に情報開示します。

また、企業をとりまく幅広いステークホルダーと建設的な対話を行うことで、企業価値の向上に努めます。

（人権の尊重）

私たちは、すべての人々の人権を尊重します。

（消費者・顧客との信頼関係）

私たちは、お客様の信頼と満足を得るために、適切な情報提供、誠実なコミュニケーションを行います。

（働き方改革）

私たちは、個々の能力を高め、多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現すると共に、仕事と生活の調和の実現に努めます。

（職場環境の充実）

私たちは、健康と安全に十分配慮した働きやすい職場環境の構築に努めます。

（環境問題への取り組み）

私たちは、地球環境への影響や、その対策を考えて行動します。

（社会参画と発展への貢献）

私たちは、良き企業市民として、公の秩序に従い、信義誠実な行動を行うとともに積極的に社会に参画し、その発展に貢献します。

（危機管理の徹底）

私たちは、反社会的勢力の行動やテロ、サイバー攻撃、自然災害等に備え、組織的な危機管理を徹底します。

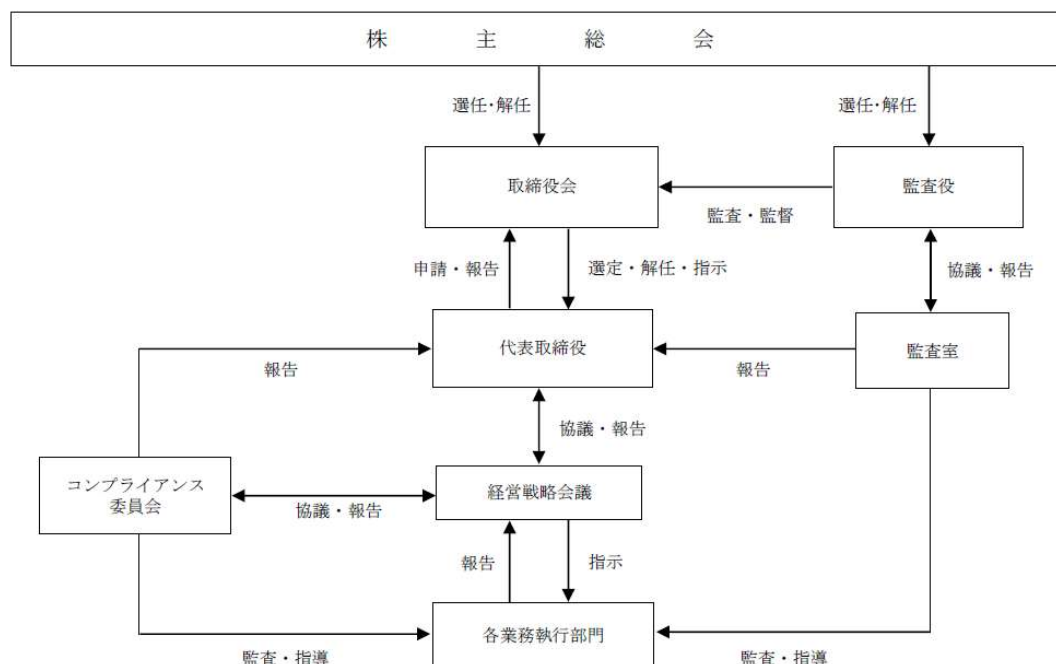
（経営トップの役割と本憲章の徹底）

経営トップをはじめとする役員は、本憲章の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範して行動するとともに、社員への周知徹底を図る。また、社内外の声を把握し、実効あるガバナンスを構築するとともに、企業倫理の徹底を図る。本憲章の精神に反し、社会からの信頼を失うような事態が発生したときには、経営トップが率先して問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努め、その責任を果たし、信頼を回復する。

コーポレート・ガバナンス

ステークホルダーの皆様に対する責任を自覚し、持続的な成長と中長期的な企業価値の創出に努めます。コンプライアンスに沿った事業活動を行い、コーポレート・ガバナンスを充実させていくことを最重要課題のひとつと位置付けています。

1. 機関構成・組織運営等について 組織形態：監査役設置会社



コーポレート・ガバナンス体制図

2. 会社の機関について

取締役会は取締役6名で構成されており、重要事項の決定及び業務執行の監督を行っています。また、取締役会に準ずる機関として経営戦略会議を設置しています。経営戦略会議は執行役員5名で構成されており、社内の重要事項についての確かつ迅速な意思決定を行い、急速に変化する経営環境に対応できる経営管理体制をとっています。

監査役は取締役会をはじめ社内の重要会議に出席し、取締役の業務執行及び企業活動の適法性、妥当性について監査しています。

各業務執行部門が行っている事業活動については、監査室及びコンプライアンス委員会により、その適法性、妥当性を監査しています。

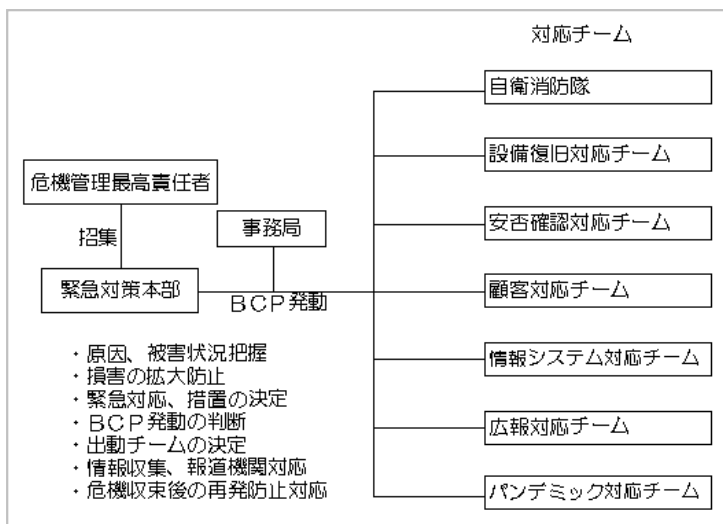
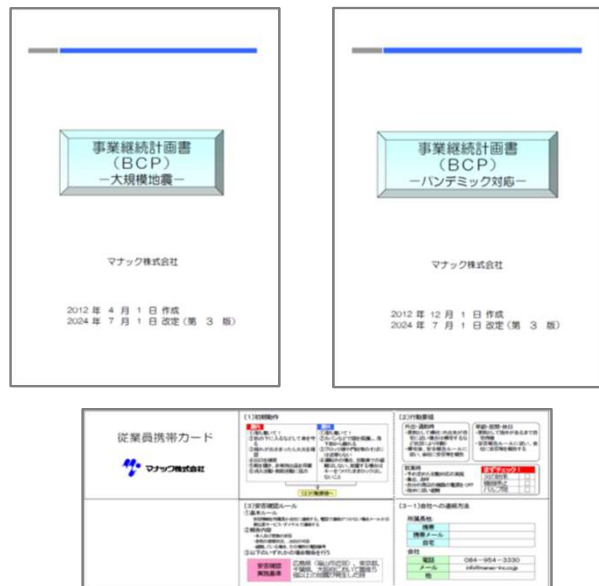
3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由について

マナックの企業規模や事業内容などを総合的に勘案し、現体制がマナックにとって最も実効性のあるものと判断しています。

ガバナンス

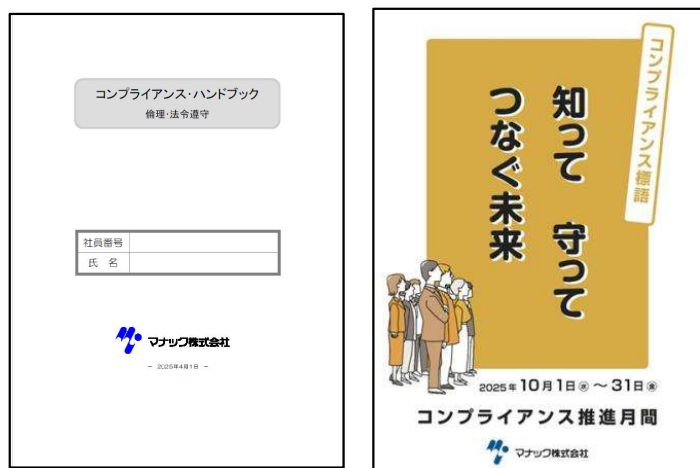
リスクマネジメント

リスクを最小限のものにするために、各種規程を定めて必要な社内体制を確立しています。大規模地震を想定した事業継続計画（BCP）に加え、感染症などパンデミックへの対応も行っており、状況に合わせた内容の見直しをしています。



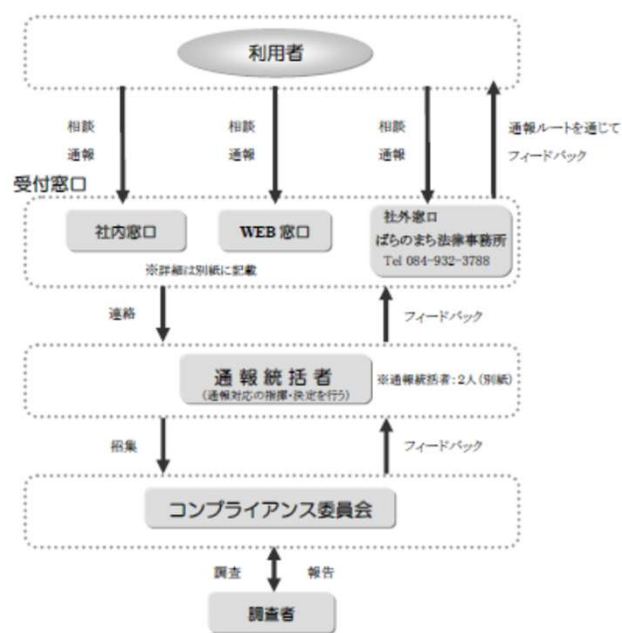
コンプライアンス

「企業行動憲章」に基づき、高いコンプライアンス意識をもって行動いたします。また、担当役員のもとコンプライアンス委員会を設置し、社内意識の向上に努めています。さらに、コンプライアンス違反に対して、効果的に対処するため内部通報制度を定めています。



コンプライアンス・
ハンドブック

コンプライアンス
推進月間ポスター



内部通報制度

ハンドブックの配布、毎月の教育活動や推進月間（10月）を通じて、役員及び従業員へのコンプライアンス意識の浸透を図っています。

利用者にとって、使いやすく、信頼される仕組みを目指して、内部通報制度を運用しています。直近では、より匿名性の高いWEB内部通報窓口を開設いたしました。

環境への取り組み

環境マネジメントシステム

ISO14001：2015年版規格に基づいた環境マネジメントシステムを確立しています。
「環境基本理念」、「環境方針」に沿った環境への取り組みを行っています。

環境基本理念

当社は温暖な気候に恵まれた瀬戸内の地に創業し、今日まで企業活動を展開してきました。この恵まれた環境を守ることも企業の使命の1つであると認識しています。

当社の事業は、常に化学物質と向き合っています。

化学物質は、その取扱いを一步誤ると、危険で有害なものであり、地球温暖化や環境汚染のもととして危惧されています。

しかし、適切な管理下に取り扱えばその用途は格段に広がります。

当社は、化学物質の有益性を生かしうするために、様々な場面において、環境への影響や、その対策を考えて行動し、社会の進化・発展に貢献するとともに、「地球環境・人間社会に信頼と安全・安心・感動を発信する会社」を目指します。

環境方針

1. 地球温暖化や環境汚染の防止を念頭においた事業活動に努めます。
2. 活動の各段階において、大気への排出の抑制、廃棄物の削減、省エネルギーに取り組めます。
3. 全従業員に対して積極的な教育・訓練を実施し、環境に対する意識と知識の向上を図り、汚染の予防に努めます。
4. 環境保全に関する各種法令・協定等を理解し、順守します。
5. 環境マネジメントシステムを効果的に運用し、定期的にレビューを実施すると共に、継続的改善を図ります。

2025年4月1日
マナック株式会社
代表取締役社長執行役員 山下美保

環境マネジメントシステム
認証書



登録番号 JCQA-E-0502 登録日 2003年10月27日
更新日 2024年10月27日 有効期限 2027年10月26日

社名(事業所名)：マナック株式会社
福山工場

所在地：広島県福山市箕沖町92番地

標記登録番号を記した付属書に記載の認証範囲で特定される貴社(事業所)の環境マネジメントシステムは、当社の環境マネジメントシステム審査登録制度による審査の結果、JIS Q 14001:2015 (ISO 14001:2015)に適合していることを証します。

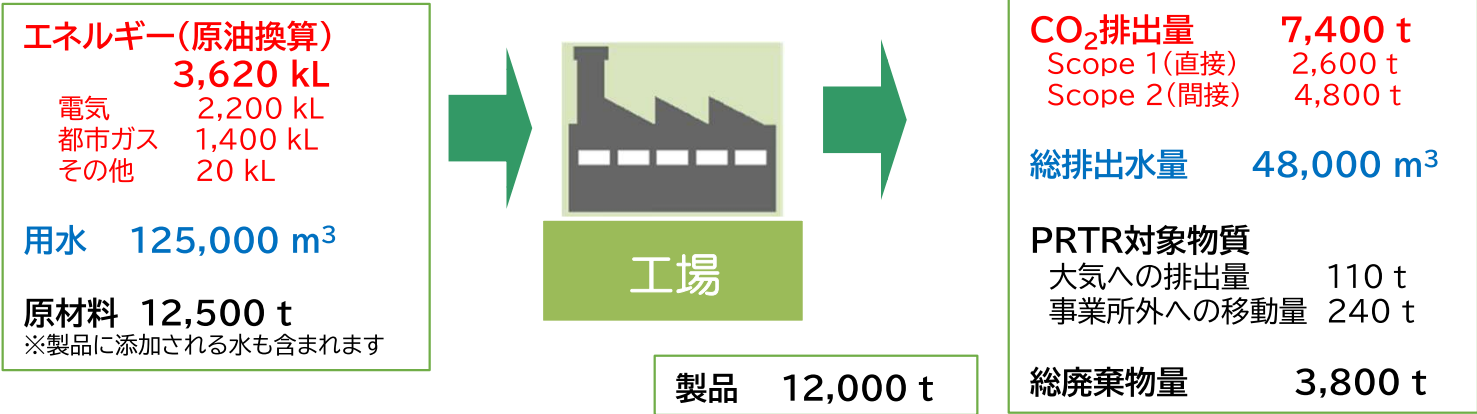
発効日 2024年10月7日



〒105-0003
東京都港区西新橋1-14-2 新橋3丁目ビル
日本化学キューエイ株式会社
代表取締役社長 堀内 猛

マテリアルフロー

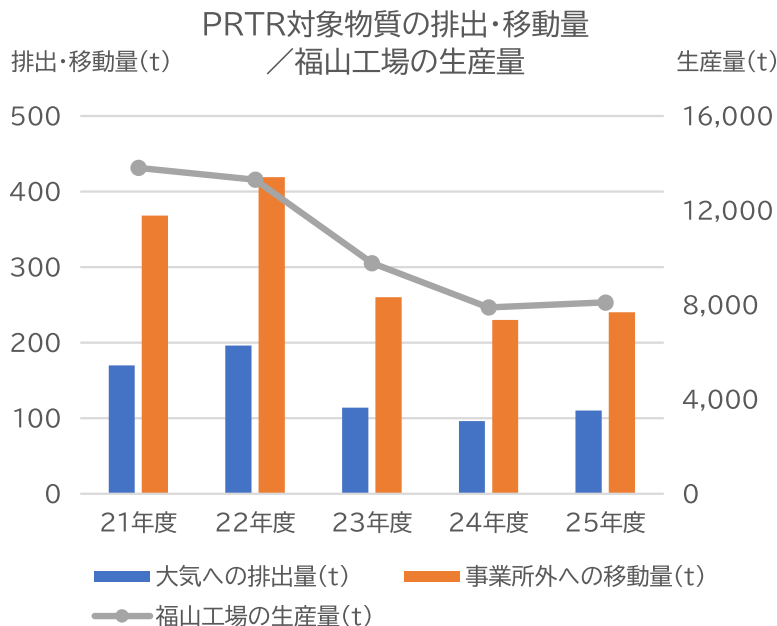
事業活動に伴い投入するエネルギーや資源、排出される物質を定量的に把握し、重要な環境課題の特定や課題解決に役立てています。今後も環境影響の最小化を目指して推進していきます。



環境への取り組み

大気への排出抑制

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（PRTR法）に基づき、対象事業所となる福山工場においては化学物質の環境への排出量・移動量を把握しています。ISO14001システムと連動し、対象化学物質の排出抑制を環境目標活動として継続的に取り組んでおり、効果が徐々に表れています。



■環境目標活動

- ・ 設備： 密閉化の推進
冷却能力の向上
- ・ 工程： 作業方法の改善
除害装置の適正使用
低環境負荷溶媒利用の促進
- ・ 取扱者：適切な取扱方法の教育

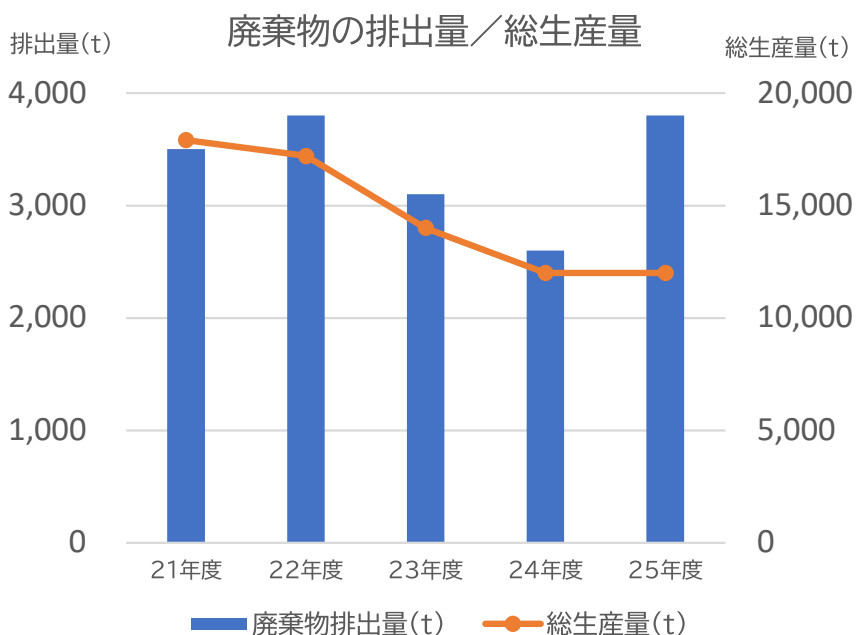
※PRTRとは

「Pollutant Release and Transfer Register」

人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質について、事業所からの環境（大気、水、土壌）への排出量及び事業所外への移動量を、事業者が自ら把握し国に対して届け出るとともに、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計し、公表する制度です。

廃棄物の削減

当社では、廃棄物の分別回収、溶媒のリサイクル等廃棄物の適正な処理と再資源化に努めています。また、廃棄物の処理に関しては優良認定処理業者を選択し、3Rの推進を実施して、燃料やセメント原料への転化を行い、循環型社会の構築に貢献しています。



■廃棄物排出量の推移

2025年度は、溶媒の使用が多い品目の生産があり、一時的に排出量が増加いたしました。引き続き工程等の見直し等を推進し、廃棄物の発生抑制に取り組んでいます。

■廃棄物排出量の削減活動

環境目標の一環として、洗浄用アセトンの蒸留回収、水系廃液の社内処理の推進を行い、廃棄物の削減に努めています。

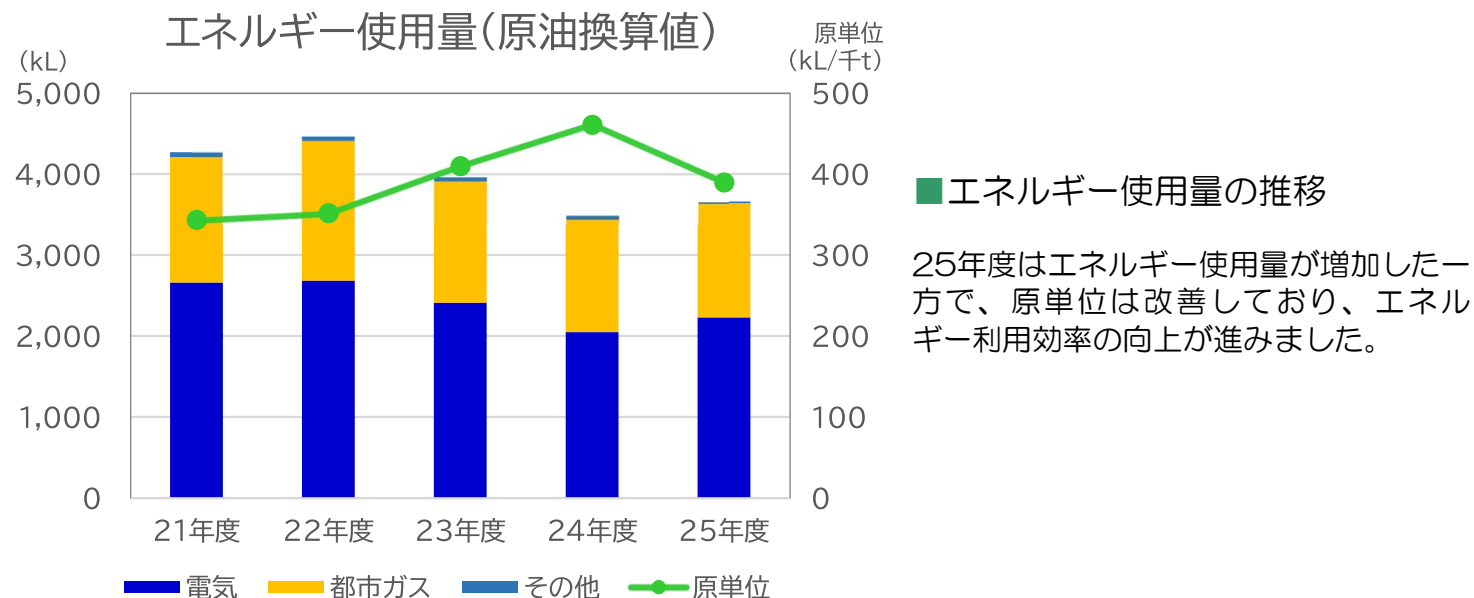
■作業着の回収活動

これまで使用済み作業着は廃棄しておりましたが、回収サービスの活用を始め、2025年度は122.5kgの回収となりました。

環境への取り組み

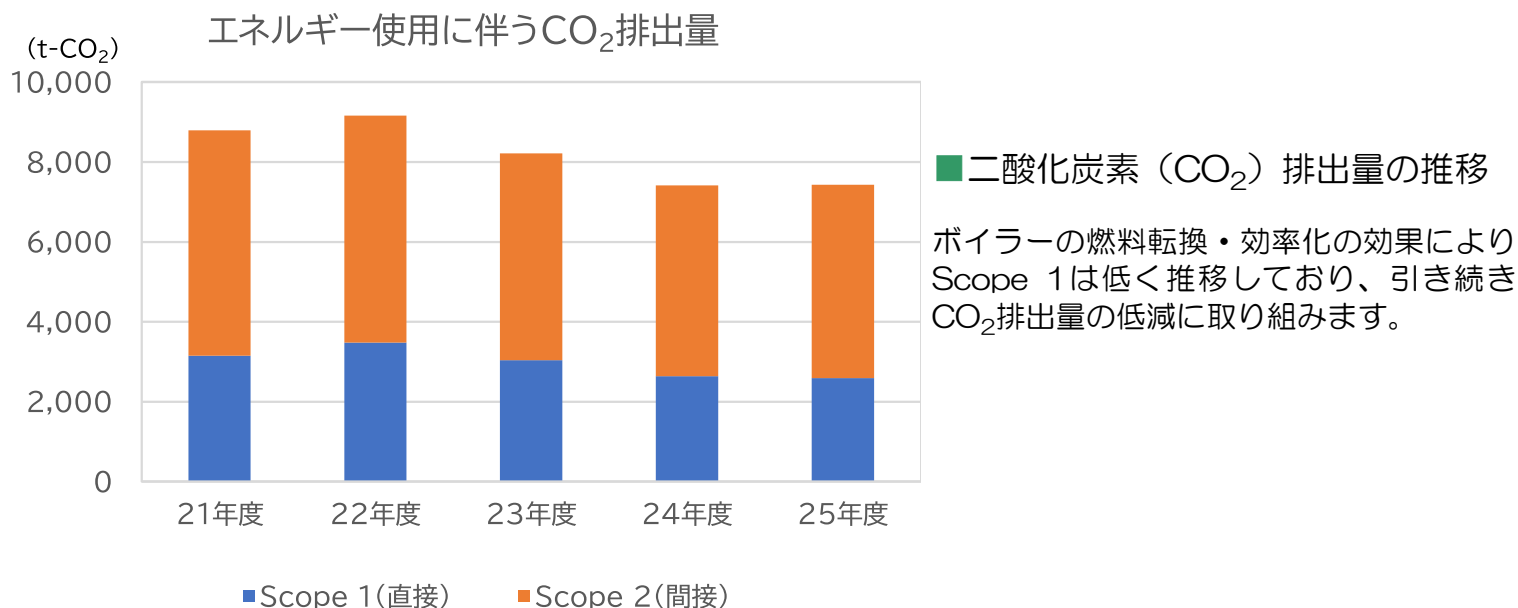
省エネルギー

2025年度は、エネルギー使用量が微増しましたが、製品構成の変化や生産数量の増加に伴い、エネルギー原単位は大幅に改善しました。引き続き、省エネ活動を推進していきます。



二酸化炭素 (CO₂) 排出抑制

当社の排出する温暖化ガスのほとんどはエネルギー起因CO₂です。従って、省エネ活動がそのまま地球温暖化の防止活動となります。ボイラーの燃料転換・効率化並びに電力低減に注力するとともに、廃棄物発生抑制（委託先での温暖化ガスの減少に寄与）等にも取り組んでいます。



環境への取り組み

省エネルギーの推進活動

当社はエネルギー管理「特定事業者」であり、生産のほとんどを受け持つ「福山工場」（「第1種指定工場」）を最重点に、全社において省エネルギーを推進しています。福山工場の熱源であるボイラーは、ガス専焼の小型高性能機を台数制御運転しています。一方、電力削減は、工場の原動機を中心としながら事務／生活系での一般電力も含めた省エネに継続して取り組んでいます。

■ 継続中の取り組み

- ・ 省エネ型の冷凍機、空調機へ更新
- ・ LED電灯の導入（生産施設を含む）
- ・ ポンプ等回転機器のインバーター化
- ・ 出入口のビニールカーテン設置等（空調の負荷ピークを緩和）
- ・ こまめな消灯や空調停止などの節電活動
- ・ 工程の時間調整によりピーク電力をシフト
- ・ 設定圧力（空気圧、蒸気圧）の変更による負荷低減
- ・ 冷凍機系等の定期整備・更新（熱交換部、冷却塔など）
- ・ 配管、トラップ、保温材などの自主保全活動（漏れ、熱ロス防止）
- ・ 電気自動車、充電設備の導入（1年あたり1,500kmの走行）
- ・ クールビズ、ウォームビズの推進



環境教育の実施

環境に関する法令への理解を深めるため、化審法についての講習会を実施しました。化学物質の適正な管理と法令順守の重要性を共有し、環境保全に向けた意識向上を図っています。

環境目標達成状況

環境方針に沿ったテーマで目標を立て活動しています。未達の目標に関しては結果を分析・評価し、継続的な改善に努めます。

活動テーマ	達成状況
PRTR対象物質の大気への排出抑制	12件/15件
廃棄物の抑制	3件/3件
省エネ	4件/4件
環境汚染の予防 （廃液管理、業務効率化、工程改善等）	7件/7件
法令・協定等の順守	6件/6件

安全衛生への取り組み

安全衛生管理体制の確立

2025年度より、安全衛生方針を「全員参加の安全衛生活動を学びの場とし、リスクを察知する力と、リスクを克服する力を育む」として取り組んでいます。化学品や設備を取り扱う職場では、リスクを正しく理解し、適切に対応する力が不可欠です。安全衛生活動を通じて、危険を察知する力と克服する力を育み、安全で安定した事業運営を支えることを目指しています。

■安全衛生活動

事故・労働災害ゼロ、化学物質による事故・災害ゼロを目指し、安全衛生委員会を主体に活動を行っております。また、4つの基本施策を設定し、委員会内に設けたワーキンググループにより主体的な活動を展開しています。

■基本施策

1. リスクアセスメント
 - ・自職場の危険性・有害性をリストアップし、対策を実行する。
 - ・実行した取り組みを振り返り、成果の発表を行う。
 - ・リスク情報を共有し、守るべきルールを周知する。
2. 5S活動の実践
 - ・一仕事、一片付けの実践〈整理・整頓〉
 - ・週末清掃の有効利用と各部署特性に応じた5S習慣付け〈清掃〉
 - ・パトロール実施による状態の維持〈清潔〉
 - ・実行可能なルール、手順の作成〈しつけ〉
3. 自主安全衛生の取り組み（職場リスク低減活動）
 - ・危険予知活動（危険予知訓練、ヒヤリ・ハット、キガカリ活動、指差考動）
 - ・職場パトロール（定期、不定期）の実施
 - ・エイジフレンドリー職場の推進
 - ・安全衛生職場会議（毎月1回以上）
各部署に潜在する安全衛生テーマに対する取り組み
 - ・過去の事故・トラブル対策事例の再検証
4. こころとからだの健康管理
 - ・定期健康診断後の積極的対応による有所見率改善の取り組み
 - ・ストレスチェックの実施やメンタルヘルス対策の整備（心の健康づくり計画）
 - ・スマイル運動「明るい笑顔のあいさつから」を実施
 - ・目配り、気配り、声かけの実施（朝礼、始業、終業時のミーティング等）

■その他

1. ワーキンググループによるテーマ別活動
 - ・集合教育の企画（危険物の安全な取扱い、静電気対策による防災等）
 - ・安全の日（毎月1日）の行事の推進
 - ・ヒヤリハット、キガカリ活動の推進及び結果報告
 - ・化学物質リスクアセスメントの推進
2. 安全衛生パトロール
（役員、産業医、安全管理者、衛生管理者）
3. 全国安全週間、全国労働衛生週間の行事企画推進
4. 外部関連団体との連携安全管理体制の確立



安全衛生パトロール

安全衛生への取り組み

健康の保持増進

当社では、従業員一人ひとりが健康に過ごせるよう、年2回の定期健康診断を行い、健診の結果、再検査が必要な場合や、所見がある場合には、産業医による個別のフォローを実施するなど、生活習慣病などの予防に努めています。その他、広島県の健康関連事業と連携し取り組んでいます。

産業医による健康管理、衛生の指導
産業医による心と身体の健康相談（毎月）
産業医による職場巡視（毎月）
検診機関・保健師による日常の生活改善指導、健康への支援
衛生講習会「衛生管理者による衛生訓話」開催
季節要因による流行疾患の情報（毎月）

心の健康づくり

メンタルヘルス対策として、全従業員を対象とした「心の健康診断」講習会を実施し、心と身体健康管理に取り組んでいます。

■心の健康づくり計画

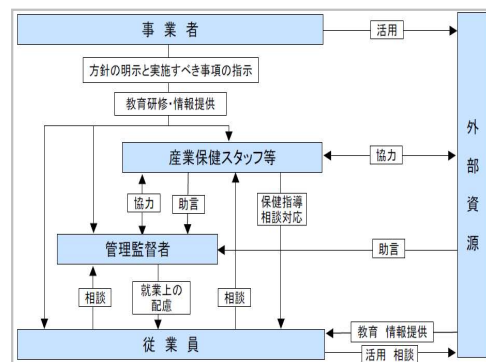
従業員とその家族の幸福な生活のために、また事業場の生産性及び活気のある職場づくりのために重要な課題であり、メンタルヘルス不調への対応だけでなく職場のコミュニケーションの活性化などを含めて広い意味での心の健康づくりを推進しています。

2015年12月の労働安全衛生法改正により、ストレスチェック制度が創設されました。

※ストレスチェックの目的

- ・一次予防。（従業員のメンタルヘルス不調の未然防止）
- ・自分自身のストレスへの気づきを促す。
- ・ストレスの原因となる職場環境の改善につなげる。
- ・メンタルヘルス不調に対応し、予防する。

当社では、2010年に心の健康診断の実施を開始し、2012年度から心の健康づくり計画により運用しています。



心の健康づくり体制図

■心と身体健康づくり、明るい職場環境の推進

社外専門家のケアによる、家族を含めた心の健康相談の窓口を設置しています。

■健康経営研修

健康経営アドバイザー／トータル・ライフ・コンサルタントの 星野大輔様 を講師にお迎えし、「がん・生活習慣病予防」から始まる働く人の健康と人生設計と題した研修を実施いたしました。

生活習慣病予防に向けた日々の取り組みや、健康診断結果の見方についてご説明いただきました。受講を通じ、日常生活習慣を見直すことの重要性和健康的に過ごすことの大切さを再確認する機会となりました。



安全衛生への取り組み

保安・防災

危険物施設や薬品保管施設などでの事故発生（火災・爆発、漏洩）を想定した対応訓練を繰り返し行い、継続的なレベルアップに努めています。また、自然災害（地震、津波）への対応として緊急用資材・備蓄品等も定期的に点検し、BCPの一環としています。

【近年の防災訓練実施状況（福山工場）】

年月	事故想定
2021年 06月	基本動作、操作の確認、隊列訓練
11月	ドラム缶 破裂火災・延焼の危害（拡散）防止
2022年 03月	地震想定 机上訓練（安全確認、安否確認）
05月	設備破損・薬液およびガス漏洩
2023年 03月	地震想定 机上訓練（安全確認、安否確認）
05月	酸性ガス漏洩の危害（拡散）防止
11月	臭素漏洩・ガスの危害（拡散）防止
2024年 03月	地震想定 机上訓練（安全確認、安否確認）
05月	ドラム缶破裂火災・延焼の危害（拡散）防止
11月	臭化水素漏洩・ガスの危害（拡散）防止
2025年 03月	地震想定 机上訓練（安全確認、安否確認）
05月	臭素漏洩・ガスの危害（拡散）防止
11月	配管切断中の火災の危害（拡散）防止
2026年 03月	地震（津波）想定 机上訓練（安全、安否、避難確認）



化学物質安全・物流安全

便利で快適な私たちの生活は、さまざまな化学物質に支えられていますが、これらの化学物質は多くの法令などにより規制されています。改正された法令には随時対応し、安全な取扱いを心掛け、SDS、ラベル、イエローカード等により、お客様や物流関係の方にも情報を提供しています。

■GHS対応

化学品の分類及び表示に関する世界調和システム（GHS）に基づいて、化学品の危険有害性を一定の基準に従って分類し、絵表示などを用いて分かりやすく表示したラベルへの対応を進めています。

■SDS（安全データシート）による情報提供

化学品の安全な取り扱いを確保するために、化学品の危険有害性等に関する情報を記載した文書SDS（安全データシート）をお客様に提供するとともに、社内の担当者にも通知し、取扱い時の注意喚起を促しています。法令の改正に伴い、随時改訂を行っています。

■イエローカード

万が一の輸送中の事故に備え、物流安全管理指針に沿って、運転手や消防・警察などの関係者が取るべき処置を記載した緊急連絡カード「イエローカード」を作成し、輸送中の注意喚起を促しています。



マナックは、環境・社会に配慮した持続可能な調達を推進するため、「購買基本方針」を制定いたしました。この方針には、お取引先様との相互理解、信頼関係に基づき、サプライチェーン全体でCSR調達活動に取り組む姿勢を取りまとめています。

購買基本方針

当社は、企業理念「スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する」を実現するため、すべてのお取引先様は相互理解と信頼関係に基づく良きパートナーであると考え、以下の購買方針を策定し、購買活動を行います。

1. 調達の選考基準

- ・お取引先様の選定においては、過去の実績に拘らず、公平・公正を徹底し、グローバルに開かれた購買活動を行います。
- ・BCP（事業継続計画）の基本方針に則り、安定調達、及び価格・品質・供給能力などの経済合理性の判断基準に基づいて決定します。

2. 法令遵守

- ・購買活動に関わる各国の法令・規制、及び社会規範を遵守します。
- ・企業倫理に基づき社会的良識をもって行動し、サプライチェーン全体への浸透に努めます。

3. 信頼関係の構築

- ・相互利益の精神に基づき、お取引先様とのより良い信頼関係の構築に努め、お取引先様からのCSR調達関連の調査協力やガイドラインに賛同します。
- ・お取引先様との取引において得た重要事項・情報については機密保持を徹底し、適切に管理します。

4. CSR活動

- ・社会、環境、人権に配慮した責任ある調達活動を行います。
- ・持続可能な社会の実現のために、サプライチェーン全体のCSR活動推進に取り組みます。
- ・紛争鉱物は、原料として使用しません。

社会との関わり

地域活動

マナックでは、地域社会の一員として、より良い社会をつくるための取り組みとして、様々な地域活動へ積極的に参加しています。

■清掃活動

従業員による事業所周辺の美化活動を継続して行っております。活動を通じて地域の皆様との関わりの深耕と環境美化活動に努めています。



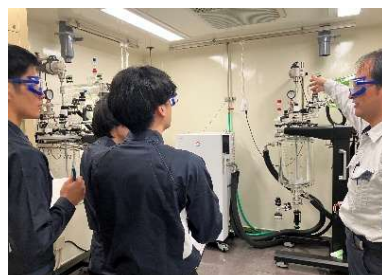
■消防競技大会

2025年10月に開催された福山地区消防競技大会に参加しました。上位入賞をめざして毎年複数の社員が出場のための訓練を行っており、工場全体の安全意識向上に寄与しています。



■地域の学校との関わり

福山工場近隣の中・高・大学生のインターンシップ受け入れを続けています。



■地域活動への協賛

福山シティFCのパートナーとしてJFL昇格を直近目標とするチームの応援とクラブの活動を継続的にバックアップしています。



福山ばら祭り、芦田川花火大会など地域を代表する催しへの継続協賛のほか、福山市箕沖球場ネーミングライツ取得など地域活動の協賛に積極的に関わっています。



働き方改革

マナックは、DX化による業務改善の取り組みによって、従業員の働きがいや働きやすさの向上とライフ・ワーク・バランスの推進を両立させ、社員も会社も成長する企業体質を目指し働き方改革を推進しています。

■これまでの取り組み

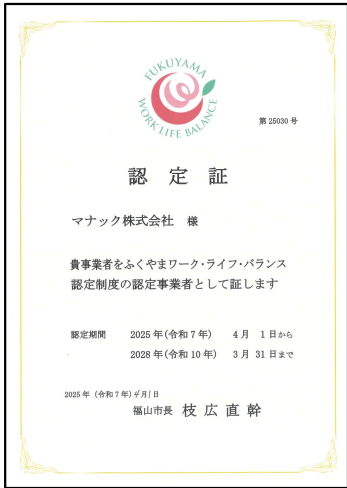
取り組み	目的	内容
フレックスタイム制度	長時間労働の抑制 柔軟な働き方の推進	業務内容に応じてコアタイムを廃止し、 長時間労働の抑制が可能
労働時間管理のデジタル化	適正な労働時間管理	勤怠管理をシステム化することで適正 な労働時間を管理
在宅勤務制度	柔軟な働き方の推進 育児・介護の両立	リモートワークにより、時間の有効利 用が可能に 育児・介護の両立が可能となった
時間単位年休の導入	柔軟な働き方の推進 育児・介護の両立	ライフ・ワーク・バランスの更なる推 進
子を養育する社員の超過勤 務制限の対象拡大	柔軟な働き方の推進 育児の両立	時間外勤務をさせない等の超過勤務制 限の対象者を、中学校入学までの子を 養育する社員までに拡大

■ライフ・ワーク・バランスの推進

フレックスタイム勤務制度、時間単位年休制度の運用を進めるとともに、積立年休（消滅した年休）の優先取得を可能とするなど柔軟な制度の整備を続けています。働きやすい環境の提供は年次有給休暇取得率にも表れており、全国平均約67%を上回る結果となっています。また、男性従業員の育児休業の取得を推奨し、2025年度は7名（育児休業取得率100%）の方が取得されました。

	2023年度	2024年度	2025年度
年休取得率	71%	73%	72%
月平均残業時間	7時間	6時間	8時間
男性育休取得者数	6人	6人	7人

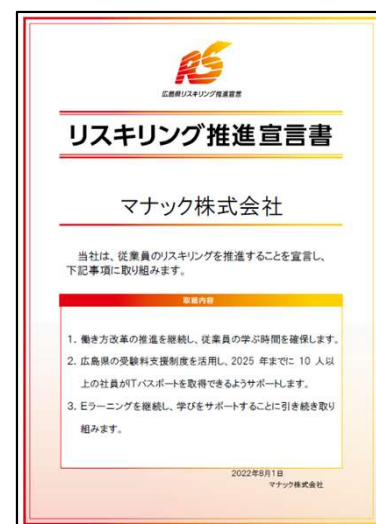
当社の働き方改革の取り組みは外部からも評価されており、「男性育児休業ベストプラクティス（広島県）」に取り上げられるとともに、「ふくやまワーク・ライフ・バランス（福山市）」の認定を受けています。これらの評価は、当社が従業員一人ひとりのライフステージに寄り添い、仕事と生活の調和を支援していることの証であり、持続可能な企業経営につながるものと考えています。



■教育制度の充実

2021年度よりWEB研修制度を導入し、社員個々のステージに応じた受講や興味のある分野への積極的な知識の取得、弱点の補強などに活用しています。

また、ITスキルの向上を目的としたITパスポート取得を支援しております。2025年までに10人以上の取得を目標に掲げ、結果として16人が資格を取得しました。これに限らず、新たに必要となる業務、職務に順応できるよう、これからも従業員全体の能力向上を目指して推進していきます。



■人事評価制度の充実

人事管理システムによる、評価結果のフィードバックや評価の透明化を図ることで従業員のエンゲージメント向上を目指しています。

健康経営の取り組み

マナックは、従業員が心身ともに健康で働き続けることができる会社を目指し、健康経営を進めてまいります。

■健康経営宣言

健康経営優良法人2026（中小規模法人部門）に認定

取り組み内容：

- ・産業医による健康管理、衛生の指導
- ・毎月行う産業医による心と身体健康相談
- ・保健師による日常の生活改善指導、健康支援
- ・衛生管理者による衛生講習会の開催
- ・インフルエンザワクチン接種の全額補助
- ・人間ドック対象者への全額補助
- ・女性医師による女性従業員の為の健康相談
- ・ラジオ体操（任意）の継続実施
- ・スポーツ系同好会（サッカー、テニス、ウォーキング）への支援
- ・自動販売機における健康配慮飲料の提供、健康アプリと連携させた健康意識の向上



■健康支援制度の充実

年2回の健康診断はもちろん心の健康診断も実施。2021年度より女性活躍の観点から女性を対象とした女性医師による健康診断制度も引き続き運用しております。その結果、女性のストレスレベルが低減する結果となりました。

持続可能な社会に向けた取り組み

ウッドプラスチック材料の研究開発・製造

これまでの難燃剤（添加剤）分野から、SDGsの観点を意識した材料分野への研究開発に注力しています。その一環として、バイオマス材料を活用した新素材の研究開発に着手し、難燃機能を含む新しい特性を持つウッドプラスチック材料の開発を浜松ラボで進めています。また、企業や大学とのアライアンスも推進しており、事業のスピードを加速させながら、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

※ウッドプラスチック（WPC）とは

木粉と熱可塑性プラスチック、添加剤等を溶融混合して作られる木質系樹脂複合材料です。現在、WPCは押出成形品が多く、デッキ材などのエクステリア建材として利用されていますが、その他の用途はまだ限られています。当社では、流動性や難燃性などの機能性を高めた射出成形用WPC材料（コンパウンド）の研究開発を進めており、これにより家電部品、建材など、利用範囲の拡大を目指しています。木粉の自然な質感と樹脂の加工性を活かしつつ、環境負荷を抑えた次世代材料としての活用が期待されています。



木粉



熱可塑性プラスチック



WPCコンパウンド

「ウッドプラスチック材料」の研究開発・製造活動が貢献できるSDGs

- 従来は押出成形が中心であったWPCが、当社開発品では射出成形が可能となり、建材や家電部品など、新たな分野への用途展開が期待されます。
- 持続可能な天然資源である木粉を高濃度に配合したウッドプラスチックの研究開発・製造・販売を進めています。従来使用されてきた化石燃料由来プラスチック使用量の削減を可能にします。
- 木粉を活用することで、木材由来成分による炭素固定効果を取り込み、温室効果ガス削減に寄与します。
- 森林由来資源を有効に利用し、付加価値を高めることで、資源の有効活用と持続可能な利用に貢献します。



■ウッドプラスチック材料の射出成形事例



ティッシュケース



くつぺら



うちわ



2026年10月発行